

— 1 —
次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の―線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい

- 1 デントウ的な風習を守る。
- 2 引き出しの中をセイリする。
- 3 ムジョウにも雨風が強くなってきた。
- 4 みかんのシユツカが始まる。
- 5 離島で民宿を営む。
- 6 被災地の復興を願う。
- 7 珍しい生物が生息している。
- 8 ペアで呼応した動きをする。

問二 次の文の中で、正しい使い方の語をア～ウから一つ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|-------|-----|----|---|----|---|----|----------|
| 1 | 新中学生 | (ア) | 対象 | イ | 対照 | ウ | 対称 | ()の講演会。 |
| 2 | 先生からの | (ア) | 支持 | イ | 師事 | ウ | 指示 | ()を待つ。 |
| 3 | 電車賃を | (ア) | 生産 | イ | 清算 | ウ | 精算 | ()する。 |
| 4 | 体力強化に | (ア) | 努 | イ | 勤 | ウ | 務 | ()める。 |
| 5 | 会議の席に | (ア) | 付 | イ | 就 | ウ | 着 | ()く。 |

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

子どもというものは、生命力に満ちているし、その可能性は無限です。

I

地球上はとりあえず生物や人間であふれていますが、宇宙から見たら、太陽系だけに限ってみても、この地球という星に満ちている生命は貴重な存在です。その星の上で、寿命が延びたとはいうものの、たかだか百年にも満たない人間の命——。そして、やっとこれから①ノびようとする初々しい子どもの命を、こんなに粗雑に扱っていいとは思えません。

ぼくたち大人はまだいい。しかし、いちばん悲惨なのは、なんといっても子どもたちです。彼らは大人よりもいつでも被害は甚大。

生体濃縮反応といつて、放射能も薬害も、水俣病の有機水銀と同じように大人よりダメージが深い。同じ地域で同じ食物を摂取すると、親は、いたいけな我が子のほうが自分より先に苦しみ死んでいく姿を、見ることになりかねないということなのです。それは親にとって、地獄の悲しみにも等しいものです。

「核戦争が起きようが、食品汚染で苦しもうが、みんないっしょならいい」という人がいるけれど、とんでもないこと。みんないっしょになんか死ねない。いちばん小さいもの、胎児、赤ん坊、子どもから滅んでいくことになるのです。そんなことにだけはしたくない。なんとしてでも、この世界を、この地球を、未来へとつなげていかねばならないと思います。

ぼくには何の力もないから、ただマンガでこんなことをメッセージしつづけてきたのです。ぼくは、大人目から見たらわかりきったことのように思われようが、いちばん大事だと感じるものをメッセージしつづけてきたつもりです。

アトムも人間の中にあつては、「差別される子」なのであつて、「ふつうの子」ではありません。けれども、信念を持って行動し、決してあきらめたりしない。ときには、どう考えても勝ち目のなさそうな相手にも、ぶつかっていく子として描いています。これはもちろんマンガの上のことですが、本来、子どもというものにはそんなエネルギーがあるのではないのでしょうか。いや、そうあつてほしいというぼくの願いでもあります。

でも悲しいことに、現在の中学生などに二十一世紀や未来のことをどう思うか尋ねてみると、ほぼ半数の子どもたちは、驚くほど虚無的な考えを持っていることがわかります。

「食糧難で餓死する人がたくさんいたり、食物を奪い合つて、殺し合いが起こる」「核戦争で人類滅亡だよ」「きつと大地震が起こつて壊滅する」「放射能に世界中が汚染されると思う」こんな具合です。

同様の不安はぼく自身のなかにも確かにあるし、前述したように事実、全地球規模で危機感が増大しているにはちがいません。

Ⅱ、テレビやSF映画、マンガが、子どもたちの不安感に拍車をかけているかもしれませんが、未来人として二十一世紀の担い手になるべき子どもたちの未来像をおおう、この絶望感はどうでしょう。

子どもたちの明るく輝く未来は、いったいどこへ行ってしまったのでしょうか。

こんなさびしいところへ子どもたちを追いつめてしまったのは、ほかならぬぼくら大人なのです。

Ⅲ、世界の現実はきびしい。いまの子どもたちや若者は、生まれた時から、人類を七回も滅亡させることのできる量の核兵器がすでに地球上に存在していたのです。もう最初から自分たちに何の責任も関わりもないところで、無残な暴力が圧倒的にのしかかってきたわけです。とてもたまったものではないと思います。やる気をなくすのも無理からぬことです。

Ⅳ、むごい現実を見据えつつ、それでもなお、いかに不動に見える現実も、何とか変えていく力が人間にはあるのだ、ということ、どうしてもっと大人は子どもや若者に示してやることのできないのでしょうか。

「もし、戦争が起こったらどうする」

という問いにも、半分以上の子どもたちが、

「どうせ逃げられない戦争なら、しょうがないから死ぬ」

「エライ人が勝手に戦争しちゃうんだから、僕たちがガタガタ言っただけで、どうせムダに決まっているでしょう」
なんて答えるのです。

戦争にしろ何にしろ、自分たちを脅かすものに対して、積極的に乗り越えたり、防止したり、変革するなどという勇氣ある発言は、めったに力をつけてこないのです。

ほとんど、クタビレた大人たちの諦観と少しもちがわない答えばかり。ただひたすら、一見、平和な体制社会の中で、日々を安楽に生き延びるのみの処世術が大人ばかりか子どももの内面にまで根を下ろしてしまいました。

Ⅴ、どんな状況にあっても、明日へ夢につなげていくための活力や理想を育むことがわれわれ大人の責任ではないでしょうか。
(手塚治虫「ガラスの地球を救え」より)

問一 ――線①～③のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 空欄 I ～ V にあてはまる言葉として最も適切なものを、あとのア～オからそれぞれ選んで記号で答えなさい。

ア たとえ イ ただし ウ けれど エ むろん オ さらに

問三 ――線 A 「みんないっしょになんか死ねない」のはなぜか。その理由を、本文中の言葉を使って説明しなさい。

問四 ――線 B 「いちばん大事だと感じるもの」とは何か、適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 人間の寿命を延ばすために、医学を発展させなければならないということ。

イ 公害病が起こらないように、環境かんきょうを守っていかなければならないということ。

ウ 緑豊かな美しい地球を守り、未来へとつなげていかなければならないということ。

エ どんなことがあっても、滅ほろびるときはみんないっしょでなければならぬということ。

問五 ――線 C 「そんなエネルギー」の指している内容として適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 鉄腕アトムのような正義のヒーローとして、強いパワーで戦うためのエネルギー。

イ 決してあきらめず、ときには、勝ち目のなさそうな相手にもぶつかっていくエネルギー。

ウ マンガとはちがって、ごくふつうの人生を生きていくためのエネルギー。

エ 子どもたちが差別やいじめに耐たえて、強く生きていくためのエネルギー。

問六 ――線 D 「無残な暴力」とあるが、何のことを言っているのか、本文より三字でぬき出して答えなさい。

問七 大人は、子どもや若者に何を示すべきなのか。筆者の考えを説明しなさい。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい

金曜日の夕方まで落ち着かなかった。

緊張もしていたし、心が浮き立つような思いもした。注意力は散漫になり、母親や妹にからかわれ、英語教師にはひどい厭味を言われた。

とにかく大事な試合なのだ、と健太は思う。多少のことは犠牲にしなければならぬ。

木曜日と金曜日は、炭水化物を主体にした食事を摂り、試合に備えた。テニス選手だったら、パスタを食べるところだけれど、健太は柔道のイメージを大切に、おにぎりや雑炊とチャーハンを食べた。

食事の効果がどれだけ期待できるかは、わからなかったけれど、精神的には安心できた。それだけでも効果があったと言うべきか。授業中にもイメージトレーニングを繰り返して、友里のスピードに対処する自分の姿を映像として脳裏に刻み込んだ。

時々、イメージのなかで友里が微笑みかけてきて、思わず頬がゆるんでしまうこともあったけれど、そんな時には頑固親父の顔を思い浮かべて気を引き締めた。友里は頑固親父の娘なのだ、と言いつつも聞かせても、邪念が消えるわけではなかったけれど、イメージのなかの友里は微笑みをやめ、試合の相手にふさわしい真剣な表情に変わった。

絶対に勝てる、という自信はなかったけれど、勝てるチャンスはある、という頑固親父の言葉は励みになっていた。チャンスを活かせばいいのだ、と健太は繰り返し思った。チャンスを活かすことができれば、勝てる。もし、活かさなければ、いやいや、否定的なイメージを持つのはやめよう。

気力も体力も充実して、健太は体育館に乗り込んだ。試合は練習が終わってから、と頑固親父には言われていた。練習で体力を消費しないように、健太はいつもよりも遅い時間に体育館に入った。

体育館にはレオタード姿の少女たちが三十人ほど集まっていた。音楽に合わせて、集団で踊っている。踊っているとしか健太には思えない。体操をしているとは思えない。

柔道場にもぎわっていた。体育館を新体操と共有する時には人の数が増えるのだ。柔道の練習よりも新体操の見学を目的にやって来る者たちを頑固親父は苦々しく見守っている。

友里の姿を捜したけれど、彼女はまだ来ていないようだった。

「健太」小学校時代からの友だちが手招きする。「あれ、見てみるよ」
あごで新体操のメンバーたちを指す。

尖ったあごの先に目をやると、薄いピンクのレオタードを着た友里がいた。ほっそりとした体がぼんやりとした光に包まれているように見えた。

壁際に立っている女の子たちは、今日、初めて新体操のメンバーに加わったらしい。友里の隣には妹がいた。妹は健太に気づいて大きく手を振った。

「今度さ」と友だちが言った。「健太の妹、紹介してくれない？」

「お前、あんなのが好みなの？」

「まあね」と友だちはうなずいた。「健太よりもかわいいよ」

友里と視線が合った。微笑する。胸の奥が熱くなる。健太はつばを飲み込み、視線をそらす。体全体が熱くなり、力を奪われていく感じがする。そっと友里に視線を向けると、彼女は妹と何か話をしていて、栗色の髪、長い手足、少しふくらんだ胸、友里はとても綺麗だ。彼女が音楽に合わせて、動くところを見たい。しなやかに体を動かし、帯のように滑らかに舞う姿をすぐそばで見たい。

健太はため息をついて、首を振り、ストレッチを始める。体力も気力も一瞬のうちに消えてなくなったようだ。このまま、畳の上に座り込んで、友里の姿を眺めていた方がずっといい。

「健太」頭上で頑固親父の音が響いた。「試合は八時すぎからだ。ふたりで友里を新体操から取り戻そうじゃないか。柔道の喜びにもう一度目覚めさせようじゃないか」

頑固親父の声はどこか遠くで響いているようだ。

(川西 蘭 「決戦は金曜日」より)

問一 線①～③の本文中における意味として適切なものを、それぞれあとのア～エから選んで記号で答えなさい。

① 「頬がゆるんで」ア 楽しくて笑いそうな表情 イ 緊張して硬くなった表情 ウ 怒りに震えるような表情 エ 緊張が和らいだ表情

② 「苦々しく」ア 不愉快な イ 困った ウ あわてた エ 楽しそうな

③ 「しなやか」ア ぎこちない イ こり固まった ウ 柔軟な エ バランスのある

問二 ――線 A 「大事な試合」とあるが、なぜ大事なのか。その理由を二十五字以内で説明しなさい。

問三 ――線 B 「邪念が消えるわけではなかった」とあるが、「邪念」の説明として適切なものを、あとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア テニス選手のように、試合に勝つためにパスタを食べて準備をしたと思うこと。

イ 試合に勝って、自らの強さを周りの人にみせつけたいと考えること。

ウ イメージトレーニングで友里が微笑みかける想像をしようとする。

エ 試合に勝つために小さなチャンスでも活かしたいと考えること。

問四 ――線 C 「らしい」とあるが、本文中と同じ意味の「らしい」を使って短文を作りなさい。短文には主語・述語を必ず入れること。

問五 ――線 D 「頑固親父の声はどこか遠くで響いているようだ」とあるが、なぜそう感じたのか。この時の「健太」の気持ちを三十字程度で説明しなさい。

問六 本文の内容として正しいものを、あとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 食事の効果がとても高かったため、肉体的にも精神的にも万全の準備ができた。

イ 健太は当日の練習をしっかりとすることで、試合に備えようと考えていた。

ウ 健太は新体操のことをよく理解しており、音楽に合わせて踊っているとは思わなかった。

エ 友里と視線が合った健太は、胸が熱くなり、慌てて目をそらしてしまった。

問題は以上です。